

2020年12月11日

熊本県知事 蒲島 郁夫様

清流球磨川・川辺川を未来に手渡す流域郡市民の会 共同代表 岐部 明廣
緒方俊一郎

美しい球磨川を守る市民の会 代表 出水 晃
子守唄の里・五木を育む清流川辺川を守る県民の会
代表 中島 康

代表連絡先 〒860-0073 熊本市西区島崎 4-5-13

TEL:090-2505-3880 中島 康

県議会答弁に関する抗議文

貴職は12月2日の熊本県議会で、山本伸裕議員の質問に対し、7月4日の大水害での人吉市での犠牲者は、球磨川の洪水によるバックウォーターで山田川が氾濫したためによるものである旨の回答をされました。この回答は、川辺川ダムを造らんがための回答であると言わざるを得ないものです。私たちは、水害直後から各支流の氾濫の状況の時間的変化と、犠牲者の確認と、どこで、どうして亡くなられたのか、また被災者の方々がいつ、どこでどのような被害に遭われたのかの調査を行ってきました。

その結果人吉で亡くなられた20名の方々全てが、球磨川のピーク流量を迎える数時間前の6時半から7時過ぎまでの間に、山田川、万江川、胸川、御溝などの急激な氾濫による急流で犠牲になっておられるのです。この間に支流のどこにもバックウォーターの形跡はみられません。貴職はどのような調査をされて、このような回答をされたのか、具体的に明確にお答えください。もしお答えがないとき、または答えられたとしても、我々県民が納得できないものであれば、貴職は公の場で虚偽の発言をしたものとして、強く抗議し、貴職の責任をとことん追求します。いま貴職は、このようにつまらない発言をする暇があるのなら、今の球磨川や支流の状況をつぶさに見て、何をしなくてはならないのか、真剣に検討し実施することです。

今回の雨の降り方を詳しく検討すると、川辺川ダムがあつたとしても、若干ピーク流量を下げることはあっても、災害を引き起こし、犠牲者を出すに至った、危険な流量を下げることは出来ません。災害の大半は、各支流が氾濫した初期段階に起こっているのです。貴職は今回の県議会での発言を、水害で亡くなられた犠牲者の魂に向かって、犠牲者の遺族の方々に向かって、水害の被災者の方々に向かって、再び言うことが出来ますか。

私たちは、貴職に対し12月2日の県議会での発言を撤回し、県民に謝罪することを強く求めます。

以上